



第2次岸和田市観光振興計画

平成29年3月31日

岸和田市

はじめに

本市では、平成19年度に岸和田市観光振興計画を策定し、観光推進に取り組んでまいりました。観光入込客数260万人の目標を掲げ、岸和田ならではの「まちづくり観光」を推進してまいりましたが、計画の実施期間中に、NHK朝の連続テレビ小説「カーネーション」の舞台となった効果もあり、平成23年度には300万人を達成し、一定の効果を上げてまいりました。

その後、観光分野においては、インバウンド観光客の増加がクローズアップされ、平成28年には訪日外国人旅行者数2,400万人を数えています。国でも「明日の日本を支える観光ビジョン」が示され、観光を地方創生の礎と位置付け、観光立国の実現へ向けて、ますます加速しています。

こうした新たな課題への対応を含めて、本市のこれからの観光施策の方向性を定めるため、新たに「第2次」となる観光振興計画をここに策定するものです。

今後、東京オリンピック・パラリンピック、ワールドマスターズゲームズ2021関西など、世界規模のイベントが予定されています。外国人観光客の増加だけでなく、食を目的としたグルメファン、歴史ファンの増加や、観光スタイルも従来の見学型から体験型へ変化しつつあるなど、昨今の観光ニーズは様々です。

本市は、だんじり祭や岸和田城などの文化や歴史、だんじり会館などの観光施設だけでなく、海から山までの豊かな自然に恵まれ、海産物、農産物も豊富であるなど、こうしたニーズへ柔軟に対応できる可能性を有しています。平成28年3月策定の「岸和田市シティセールスプラン」と整合を図りながら本市の魅力を広く内外に発信し、本市に足を運んでいただくことによって、この素晴らしいまち岸和田をさらに知ってもらいたいと考えています。

これからも、「市民が誇れるおもてなし観光」を推進していきたいと考えていますので、温かいお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本計画の策定にご尽力くださいました岸和田市観光振興計画推進委員会委員の皆様にご心から厚く御礼を申し上げます。

岸和田市長
信貴芳則

目次

第Ⅰ章 第2次岸和田市観光振興計画の策定にあたって	3ページ
1.第2次岸和田市観光振興計画策定の目的	
2.岸和田市の施策と第2次岸和田市観光振興計画の位置づけ	
3.策定体制	
4.行動計画の設定年について	
第Ⅱ章 岸和田市を取り巻く観光の現状	7ページ
1.国の施策「明日の日本を支える観光ビジョン」	
2.大阪府の観光戦略	
3.関西国際空港における訪日外国人観光客動向	
4.岸和田市における観光の現状	
第Ⅲ章 岸和田市における観光の課題と強み	14ページ
1.岸和田市における観光の課題	
第Ⅳ章 岸和田市が目指す観光振興のあり方	17ページ
1.基本方針 目指す姿とスローガン	
2.目標設定 事業評価基準について	
3.方向性 ターゲット	
第Ⅴ章 第2次岸和田市観光振興計画 第1期行動計画	21ページ
1.課題解決の方向性	
2.推進体制、事業評価体制	

本文中にある(※)マークは注釈が必要と思われる用語のため、
資料編として巻末に用語集を加えています。

第I章

第2次岸和田市観光振興計画の策定にあたって

1. 第2次岸和田市観光振興計画策定の目的

岸和田市(以下、「本市」という。)においては全国的な知名度のあるだんじり祭をはじめ、岸和田城、歴史文化、海や山などの豊かな自然環境、特産物などの観光資源が存在しますが、これらを市民の暮らしや産業として結び付けることで、地域活性化の方策とした観光振興が求められています。

本市の観光振興について将来の目指すべき方針を示すとともに、多種多様な業種が関係する裾野の広い観光振興の戦略的な取り組みを展開していくため、平成19年度に「岸和田市観光振興計画」(以下、「前計画」という。)を策定し、観光の方向性と将来の目標を示しました。

その後、平成26年3月に、前計画の達成状況や、新たな着地点等について中間報告としてとりまとめた「岸和田市観光振興計画平成25年度提言書」(以下、「提言書」という。)に基づき、観光振興事業を推進してきました。前計画が、平成28年度末をもって10年の実施期間を満了することに伴い、新たな観光振興施策を推進するための指針となる第2次岸和田市観光振興計画(以下、「本計画」という。)を策定します。

これまでの10年で新たに整備された観光資源などにおいて、一定の賑わいが散見できるものの、市内を広く見渡すと計画の実現状態は未だ十分ではありません。また、関西国際空港が訪日外国人観光客で過去最大規模での賑わいを見せるなか、本市においての波及効果は微弱です。2020年(平成32年)東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、国の観光施策も大きく舵を切るとみられ、これまでの観光振興事業を一層充実せねばなりません。

そこで、本計画は、次のように目指す姿を定め、取り組んでいきます。

観光振興で目指す姿

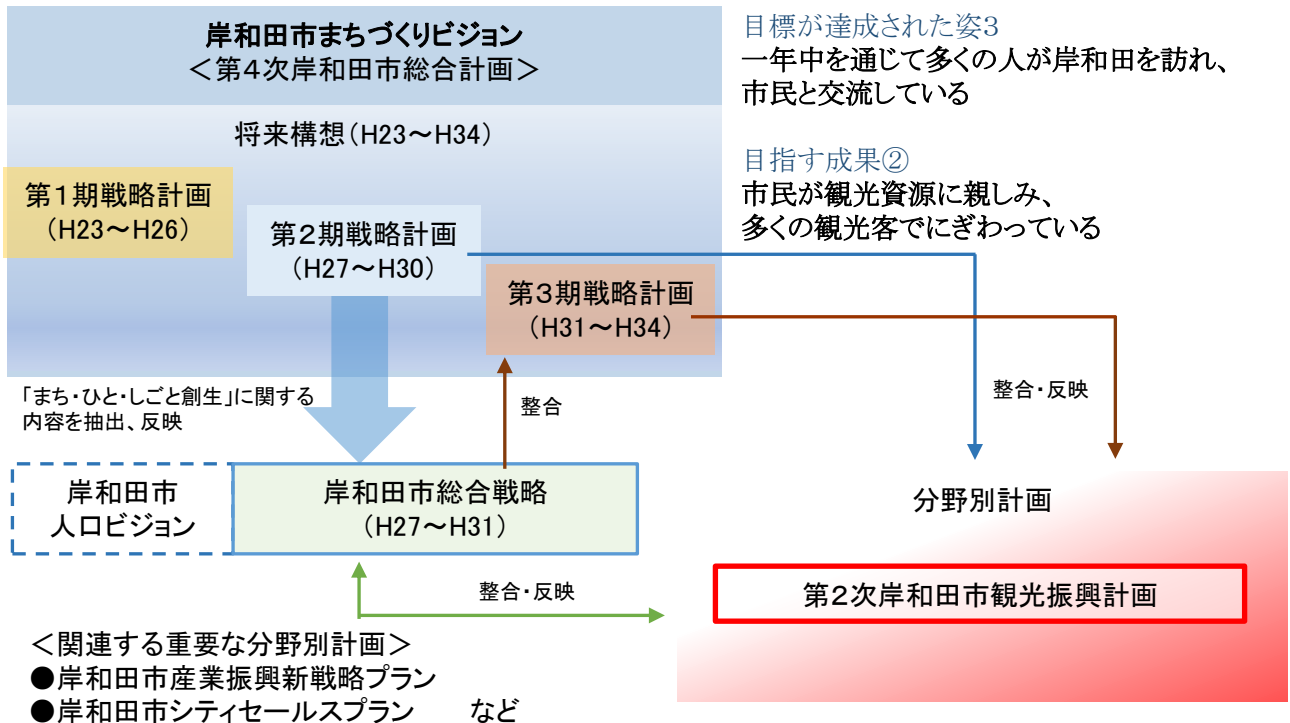
＜第2次岸和田市観光振興計画の基本的な考え方＞

地域資源の魅力を再発見・深化し、さらなる賑わいを創造する。

短い期間で、世界や市場、情報、人の動きが変化しています。観光振興によって、地域資源の魅力を再発見・深化し、さらなる賑わいを創造することを目的として、新たに本計画を策定します。

2. 岸和田市の施策と第2次岸和田市観光振興計画の位置づけ

本計画は、岸和田市総合計画である岸和田市まちづくりビジョン、ならびに国の「まち・ひと・しごと創生」施策(※)を踏まえたうえで、他の分野別計画とともに位置づけます。



3. 策定体制

本計画の策定にあたり、学識経験者、公共的団体の代表者、交通事業者、旅行事業者および公募市民で構成される「岸和田市観光振興計画推進委員会」(以下、「委員会」という。)を設置しました。

委員会において、今後の事業展開を見据え、適切な助言・提言を得ることにより、効果的・効率的な施策の企画・立案等を行いました。策定の進捗状況や課題の整理などは産業振興部観光課が事務局として進めました。

4. 行動計画の設定年について

2020年(平成32年)東京オリンピック・パラリンピックを筆頭に、格安航空会社(以下、「LCC(※)」という。)や関西国際空港の活況など、本市を取り巻く観光状況は慌ただしく変化しており、これまでのような5年、10年という長期の行動計画では時流に対応しきれない恐れがあります。本計画は7年間の基本計画として、その方向性を示しますが、行動計画においては3年、2年、2年と間隔を短くし、節目ごとに進捗状況の分析、方向性の検証・調整を行うものとしてします。

平成29年度 2017	平成30年度 2018	平成31年度 2019	平成32年度 2020	平成33年度 2021	平成34年度 2022	平成35年度 2023
岸和田市まちづくりビジョン ＜第4次岸和田市総合計画＞						次期計画 (想定)
第2期戦略計画 (平成27年度～30年度)		第3期戦略計画 (平成31年度～34年度)				
第2次岸和田市観光振興計画 ＜平成29年度～35年度の7年＞						
			検証・調整			
第1期 行動計画推進			検証・調整			
			第2期 行動計画推進		検証・調整	
					第3期 行動計画推進	

第Ⅱ章 岸和田市を取り巻く観光の現状

1. 国の施策「明日の日本を支える観光ビジョン」

(1) 進む「観光先進国」への整備

平成28年3月、インバウンド(訪日外国人旅行者※)数2000万人の目標達成が視野に入ってきたことを踏まえ、次の時代の新たな目標を定めるとともに、必要な対応の検討を行うため内閣官房にて「明日の日本を支える観光ビジョン構想会議」が開催されました。(平成28年の年間インバウンド数は2400万人を突破)

現在、「明日の日本を支える観光ビジョン」のとりまとめに向けた検討が行われており、観光先進国を目指すこの新しいビジョンでは、以下の3つの視点と10の改革が柱となっています。

視点1 観光資源の魅力を極め、地方創生の礎に

視点2 観光産業を革新し、国際競争力を高め、我が国の基幹産業に

視点3 すべての旅行者が、ストレスなく快適に観光を満喫できる環境に

観光を地方創生の切り札、国内総生産(GDP)600兆円達成への成長戦略の柱と位置づけ、国を挙げて観光を日本の基幹産業へと成長させ、「観光先進国」に挑戦していく覚悟が示されています。



図2-1 「明日の日本を支える観光ビジョン概要資料」
(観光庁 平成28年3月)より

2. 大阪府の観光戦略

(1) 大阪都市魅力創造戦略2020との連携

大阪府及び大阪市が連携して、平成28年11月に「大阪都市魅力創造戦略2020」を府市共通の戦略として策定しました。施策分野ごとに10の「目指すべき都市像」を設定し、個々の施策を戦略的に展開しています。

様々な角度から、都市としての魅力向上を図り、国内外の人々に大阪の魅力を発信し続けていくとともに、まちづくりや観光、文化、スポーツをはじめ、様々な分野の施策連携を図り、文化・都市魅力の向上(都市魅力創造)→交流人口拡大(集客効果)→消費喚起、投資拡大(経済効果)→まちの活性化(取り組みの充実・発展)の好循環に結び付く施策展開を図るとしています。

本市でも、これに整合性をもって取り組みます。



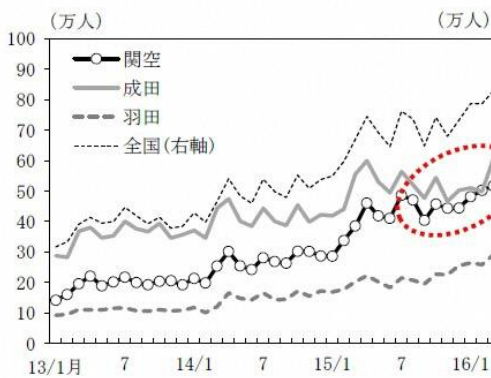
図2-2 「大阪都市魅力創造戦略2020」(大阪府・大阪市 平成28年)より

3. 関西国際空港における訪日外国人観光客動向

(1) 関西国際空港はインバウンドにて活況

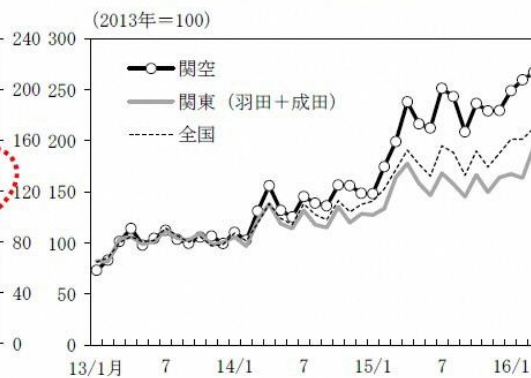
平成28年6月、日本銀行大阪支店により「関西におけるインバウンド需要の動向」が発表されました。この中で、関西国際空港ではLCCなど国際線就航便数の増加に伴い訪日外国人入国者数は増加傾向にあり、国内で入国者数が最も多い成田国際空港に迫ってきていること、また、訪日外国人客の増加を受けて、関西は国内の他の地域と比べて、インバウンド消費などの恩恵を強く受けていることが指摘されています。

(1) 外国人入国者数

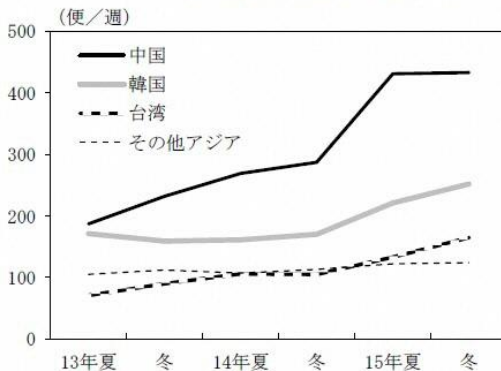


(2) 外国人入国者数の伸び

(2013年を100とした指数)



(3) 関西国際空港の国際線就航便数



(4) アジアからの入国者数

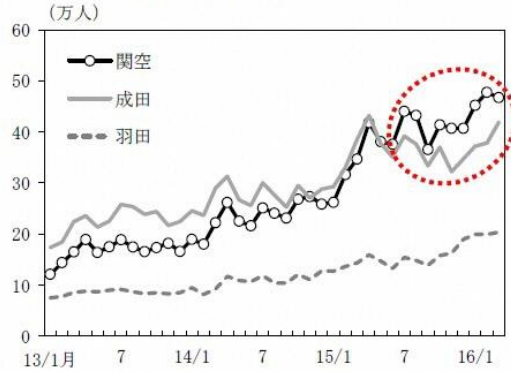


図2-3 「関西におけるインバウンド需要の動向」(日本銀行大阪支店 平成28年6月)より

図中(1)、(4)の丸で囲った部分を見ると、外国人入国者のうち関西国際空港にはアジアからの入国者の割合が高いことが分かります。

(2) 泉州地域へのインバウンド数

RESAS(リーサス/地域経済分析システム※)を使って関西国際空港発着のインバウンドの動態を調べると、4割以上の方々が大阪府内へ移動していることが見てとれます(図2-4)。

また多くの方々が京都府や兵庫県、奈良県へも移動している実態が明確になっています。

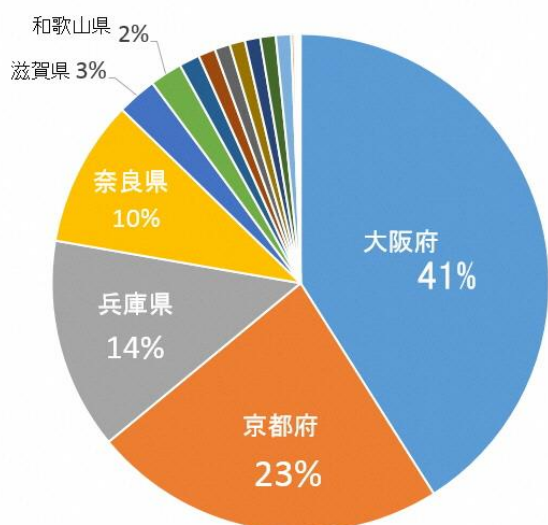


図2-4 「入出国空港間で訪問した地域の訪問者数【関空～関空】(平成27年1～6月期)」
(株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」)

また、大阪観光局の調査(図2-5)によると、大阪府内の訪問先として、大阪城や道頓堀をはじめ、ユニバーサル・スタジオ・ジャパン(USJ)など、やはり大阪市内がほとんどを占め泉州地域においては泉佐野が1.8%、堺が1.5%という状況です。この2つのグラフからは関西国際空港利用のインバウンドは、泉佐野と堺を合わせたわずか3.3%を除いて、ほとんど泉州へは訪れていないという事実が見えてきます。

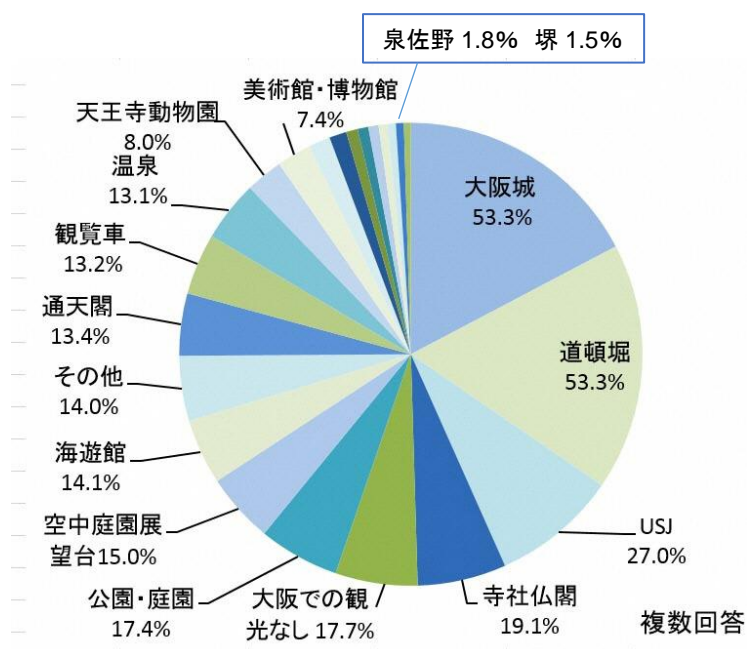


図2-5 「【関空発】大阪での観光地割合」
(大阪観光局「関西国際空港外国人動向調査」平成26年度 外国人動向調査結果より)

4. 岸和田市における観光の現状

(1) 岸和田市における観光入込客数

観光入込客数については、カーネーション(※)効果もあり、前計画の目標値である260万人を超え、300万人を達成しました。なかでも平成23年にオープンした道の駅愛彩ランドの増加が際立っています。

表2-1 岸和田市への観光入込客数

(単位:人)

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
年間の観光入込客数	1,895,534	2,201,218	2,276,147	2,288,742	2,325,741	2,292,851	3,023,275	2,988,086	2,869,964	2,873,778	3,088,586	2,992,741
主要観光施設の観光入込客数	1,505,534	1,581,218	1,666,147	1,668,742	1,735,741	1,712,851	2,306,081	2,344,453	2,367,542	2,369,929	2,601,700	2,568,431
岸和田城(郷土資料館)	24,888	30,558	32,055	32,381	35,231	37,701	53,595	56,591	37,121	43,397	41,345	38,165
だんじり会館	34,357	35,366	34,774	34,680	31,247	31,818	57,699	55,530	37,045	36,433	36,394	31,712
五風荘	9,464	7,092	9,679	15,855	95,620	129,631	136,099	120,996	110,090	108,412	109,258	104,294
いよやかの郷	255,387	265,796	263,575	230,058	233,329	191,128	208,881	206,727	195,181	194,363	190,212	179,895
観光案内所								5,719	4,520	4,330	4,895	4,897
観光交流センター									76,225	50,780	59,786	84,335
まちづくりの館											17,801	14,775
愛彩ランド							547,382	539,113	576,960	582,490	706,903	746,319
蜻蛉池公園	786,404	801,314	841,724	834,138	826,682	779,778	760,571	822,695	798,322	836,488	917,233	836,096
浪切ホール	395,034	421,092	484,340	521,630	513,632	542,795	541,804	537,082	532,138	513,236	517,873	527,943
主要イベントの入込客数	390,000	640,000	610,000	620,000	590,000	580,000	521,000	581,000	491,000	495,000	480,000	419,000
だんじり祭	360,000	610,000	580,000	590,000	560,000	550,000	515,000	551,000	461,000	465,000	450,000	389,000
お城まつり	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	6,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000
その他	0	0	0	0	0	0	196,244	62,633	11,422	8,849	6,886	5,310
岸和田が多くの観光客でにぎわい、観光の振興が十分な状態であると感じている市民の割合							14.0%	13.2%	19.0%	15.9%	14.3%	15.6%

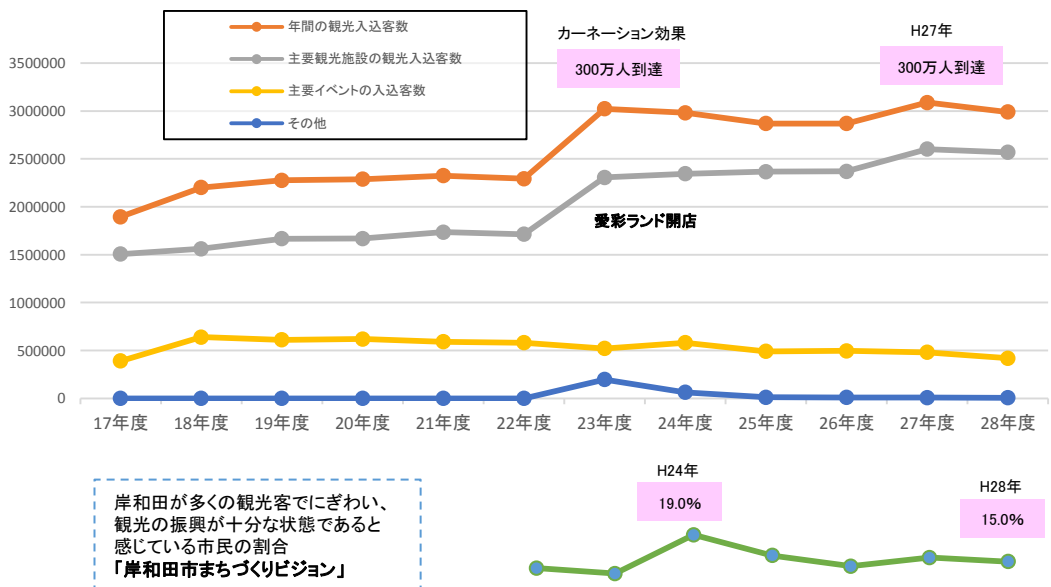


図2-6 岸和田市への観光入込客数/折線グラフ

(2) 岸和田市における外国人観光入込客数

本市における外国人観光入込客数について、主要施設において調査しました。前述の関西国際空港における外国人入国者数の伸びと比較すると緩やかな伸びとなっています。

表2-2 現在の外国人観光入込客数(H24~28年度)

岸和田城	観光入込客数	内 外国人数	割合	伸び率 H24を100とした指数
H24	56,591	650	1.15%	100
H25	37,121	619	1.67%	95
H26	43,397	736	1.70%	113
H27	41,345	996	2.41%	153
H28	38,165	1256	3.29%	193

だんじり会館	観光入込客数	内 外国人数	割合	伸び率 H24を100とした指数
H24	55,530	362	0.65%	100
H25	37,045	377	1.02%	104
H26	36,433	506	1.39%	140
H27	36,394	518	1.42%	143
H28	31,712	538	1.7%	149

五風荘	観光入込客数	内 外国人数	割合	伸び率 H26を100とした指数
H26	108,412	901	0.83%	100
H27	109,258	1,999	1.83%	222
H28	104,294	1,620	1.55%	180

* 外国人利用者集計がH25年度途中からのため。

駅前観光案内所	観光入込客数	内 外国人数	割合	伸び率 H24を100とした指数
H24	5,719	56	0.98%	100
H25	4,520	80	1.77%	143
H26	4,330	70	1.62%	125
H27	4,895	216	4.41%	386
H28	4,897	158	3.23%	282

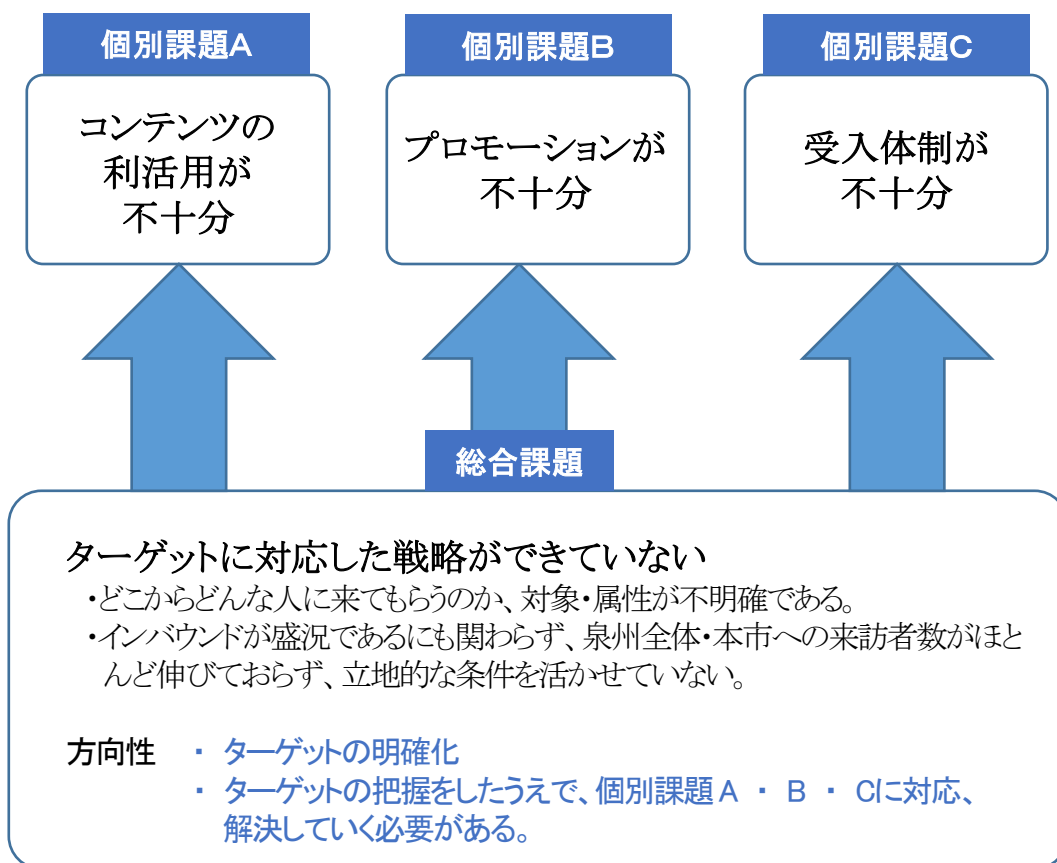
第Ⅲ章 岸和田市における観光の課題と強み

1. 岸和田市における観光の課題

(1) 岸和田市における観光の課題

前計画と提言書を整理したうえで現状を分析して、本市における観光の課題を整理し、委員会において意見をまとめました。個別課題として、身近にある観光資源などの素材(コンテンツ)の利活用、それらに対する情報発信などによるプロモーション、意識面を含めた受入側の体制がそれぞれ不十分なことが挙げられます。さらに、これらの全てに関わる総合的な課題として、どこからどんな人に来てもらうのか、対象や属性が不明確であり、ターゲットに対応した戦略ができていないことが挙げられます。

これらの課題の解消を目標とし、本計画では新たな方向性を示します。



(2) 岸和田市の強み

岸和田市シティセールスプラン(平成28年3月)において、「岸和田の資源や魅力」が挙げられています。本計画では、この中の観光に関わる資源や魅力を活かして、課題の解決を図っていかねばなりません。

表3-1「岸和田の資源や魅力」

岸和田市シティセールスプラン Ⅱ－4「岸和田の資源や魅力」	内容抜粋
温かみのある人々	・「人情がある」「人懐っこい」温かみのある人々 ・古き良き日本を思わせる風土
子育て世代に魅力的な生活環境	・市民病院や泉州北部小児初期救急センターなど、安心して子どもを産み育てることのできる環境 ・公園が多く、都市と自然が融合した魅力的なまち
都市的で個性的なライフスタイル	・泉州の中心都市として発展した歴史を背景に、時代をけん引してきた都市的な風土
立地の良さ	・大阪都心部まで電車で20分、関西国際空港まで車で15分など、交通の利便性が高い
海と山。豊かな自然	・臨海部、平地部、丘陵部、山地部と、海から山まで多様な自然環境
彩り豊かな地のモノ	・いかなごやしらす、いわし、カレイなどがとれ、漁獲高府内1位 ・水ナスや桃などの特産品があり、農業産出額府内2位
市民生活に根付いた文化活動	・浪切ホール、マドカホール、自泉会館、地域ごとの図書館、公民館で、様々な文化芸術活動が展開
市民が誇る歴史資源	・岸和田城、だんじり祭、岸和田だんじり会館など、観光の核となっており市民が誇る重要なアイデンティティ

第IV章

岸和田市が目指す観光振興のあり方

1. 基本方針 目指す姿とスローガン

(1) 岸和田市における観光振興の目指す姿とスローガン

ここまで見てきた本市の観光振興における課題や本市の強みなどから、観光振興で目指す姿に近づくための仕組みや、実現に向けての本計画のスローガンを設定します。

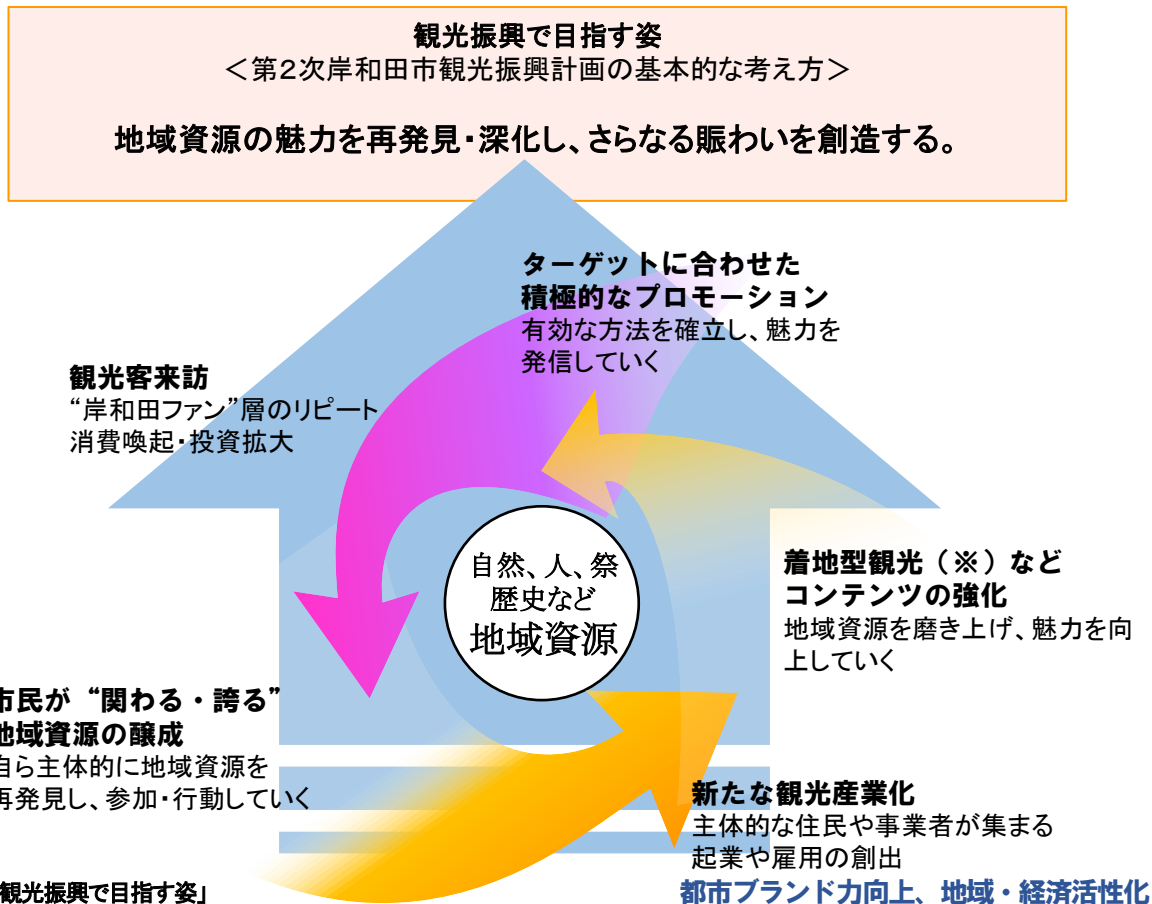
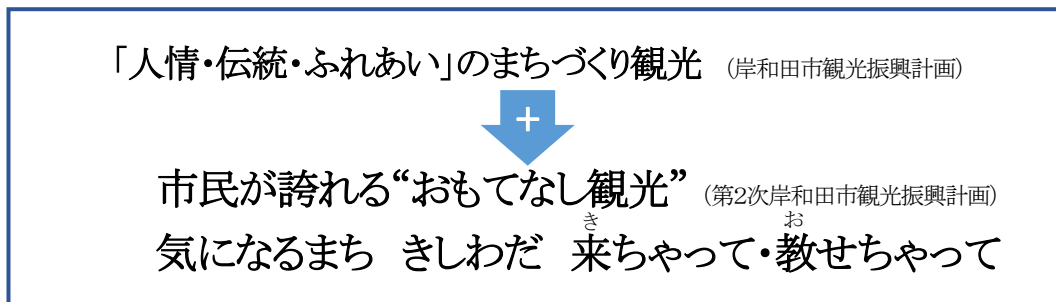


図4-1 「観光振興で目指す姿」

第2次岸和田市観光振興計画のスローガン



「気になるまち」は、岸和田市に行ったことはないが名前は知っている人が多い状況を表現しました。「来ちやっ^きて・教せちやっ^おて」とは、岸和田弁で、「来てあげてください・教えてあげてください」を意味します。岸和田市以外の人には、「岸和田市へ来てくださいね」、市民の人には、「来てくれた人に岸和田の良いところを宣伝してあげてくださいね」という思いを込めています。

2. 目標設定 事業評価基準について

(1) 数値目標等の設定

岸和田市総合戦略では、下記のように数値目標・評価指標を設定しています(表4-1)。本計画においても、これを使用します。

表4-1 「岸和田市総合戦略における目標値」等

指標名	基準値	目標値
岸和田が多く観光客でにぎわい、観光の振興が十分な状態であると感じている市民の割合	15.6% (平成27年度)	19.0% (平成31年度)
1年間の主要観光施設及びイベント等への観光入込客数	287万人 (平成26年度)	287万人 (平成30年度)
具体的な取り組み	重要業績評価指標	
岸和田だんじり会館入場者数	36,433人(平成26年度) → 37,000人(平成30年度)	
岸和田城天守閣入場者数	43,397人(平成26年度) → 45,000人(平成30年度)	

さらに、本計画における独自の目標値・指標を設けます。

表4-2 「第2次岸和田市観光振興計画における目標値等」(案)

新たな数値目標・指標の設定
<input type="checkbox"/> 宿泊施設利用者数(牛滝温泉いよやかなの郷) <input type="checkbox"/> 岸和田市観光振興協会公式サイト「岸ぶら」、「だんじり会館」ホームページのアクセス数

その他にも以下のような項目を調査し、ターゲットの明確化や効果的な情報発信、コンテンツの強化など計画の推進に活用します。

表4-3 「その他の調査項目」(案)

参考数値
<input type="checkbox"/> 「岸ぶら」利用者のSNS(※)における反応指標 <input type="checkbox"/> 観光客の満足度 <input type="checkbox"/> 観光客の認知度 <input type="checkbox"/> 観光客の再来訪(リピート)数

3. 方向性 ターゲット

(1)ターゲットの明確化

本市の観光状況を分析し、具体的な戦略を作り上げていくうえで、まずは、全てに関わる総合的な課題として、ターゲットの明確化を行い、絞り込むことによって、個別課題の解決に取り組んでいきます。

表4-4「ターゲットの分類」

滞在スタイル	解説
日帰り・立ち寄り観光	岸和田市への観光のスタンダードなスタイル 市民による観光参加
宿泊観光	祭礼時、または泉州地域としての観光を想定

出発地	解説
岸和田市内	市民によるイベント参加
京阪神	京阪神からの日帰り・立ち寄り観光
国内	日本国内から来る関西圏観光における岸和田市への立ち寄り
海外	関西国際空港における訪日比率の多い国を中心に想定

興味・関心	解説
まつり好き層	だんじり祭ファンや全国のまつり見物が目的
歴史・お城好き層	歴史のゆかり地巡りや全国の城郭見物が目的
グルメ層	テレビやSNSで知ったグルメを楽しむ目的
自然・アウトドア層	自然やスポーツを楽しむ目的

第V章
第2次岸和田市観光振興計画
第1期行動計画

1. 課題解決の方向性

(1) 総合課題「ターゲットに対応した戦略ができていない」に対する方向性

ターゲットの分類を基に課題に対応するため、基本方針は7年間という長期視点で設定しますが、第1期行動計画は定期的な調査、検証によって、傾向、動態に合わせて柔軟に対応するため3年間に設定します。

対象・属性が不明確である点やインバウンドに対し立地条件を活かせていない点などに対応するための方向性として、ターゲットの明確化を行い、ターゲットを把握したうえで個別課題に対応していきます。

- 方向性
- ・ ターゲットの明確化
 - ・ ターゲットの把握をしたうえで、個別課題 A ・ B ・ Cに対応、解決していく必要がある。

ターゲット基本方針

ターゲット属性の仮説を立て、行動計画に反映

日帰り立ち寄り観光が大半とすると、関西圏への旅行者、また京阪神の在住者が推測される。インバウンドでは訪日観光客数の多い中国や韓国、リピーターや訪日意欲が高いとされる台湾、香港などを中心に、ターゲット対象国として想定し仮説検証を行う。

(2) 個別課題A「コンテンツの利活用が不十分」に対する方向性

本市には、岸和田城、国指定名勝岸和田城庭園「八陣の庭」、世界かんがい施設遺産久米田池などを代表として優れた地域資源が存在しますが、身近にある観光資源や地域資源など、コンテンツの再発見・新規開拓や利活用が不十分です。

そこで、本市の地域資源に触れ、学び、体験できる機会、仕組みを作り出すことが重要であり、今後の観光客への提供を前提として情報発信やまち歩きのを増強、そして着地型観光商品として体験できるプログラムの開発などが必要です。

本市の代名詞であるだんじり、祭礼に関するプログラム、独自の食文化や収穫体験をセットにした買い物ツアーなどは観光客が望むニーズであると推測できます。だんじり曳行など運営に関わる分野ではなく、2次的利活用(文化的発信や土産物作成など)を図るべきと考えられます。

方向性 ・ コンテンツの充実

コンテンツ基本方針①

インバウンド観光の推進

関西国際空港に近いという立地を活かした立ち寄り観光を検証。
受入環境の整備などを推進。

コンテンツ基本方針②

体験交流型観光の推進

岸和田の多様な観光資源に着目し、見るだけでなく体験し、人と交流することによって魅力向上につなげていく。

コンテンツ基本方針③

お土産、食などの充実と地域活性化

岸和田ならではの「お土産」や「食」を充実させ、地域・経済の活性化につなげる。

個別課題A：コンテンツ基本方針における役割分担イメージ

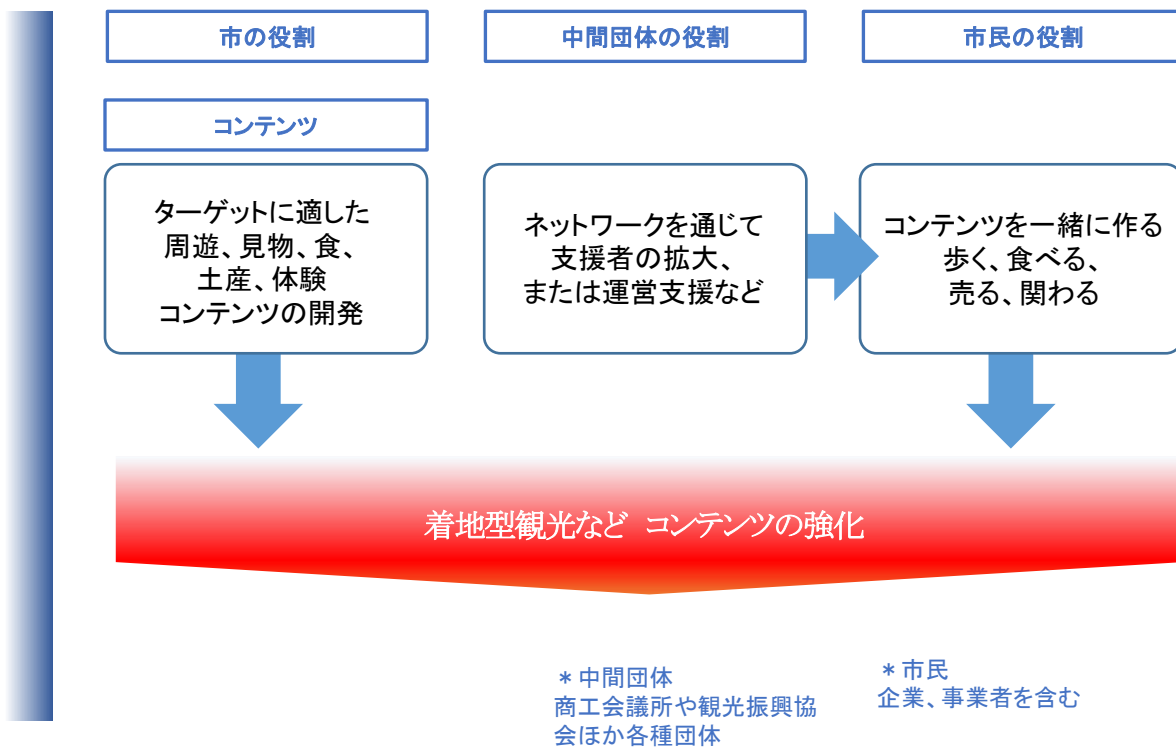


図5-1 「コンテンツの役割分担イメージ」

(3) 個別課題B「プロモーションが不十分」に対する方向性

本市の主たる観光資源である岸和田城を知らない人が多いことや、関西国際空港に近接し、立地条件として有利であると見られているにもかかわらず、外国人の来訪の大きな伸びが実感できないことなどから、ターゲットに合わせた情報発信や発地(※)におけるプロモーションが不十分であると考えられます。

身近なターミナル拠点である関西国際空港をはじめ、ターゲット属性にあわせて南海電鉄難波駅やJR大阪駅などでの積極的なプロモーションが必要です。

広域連携事業での取り組みと並行しながら、発地への情報発信など、集客パターンを構築せねばなりません。第1期では、ターゲットにあわせて、いくつかの代表的な集客パターンの構築を検討します。

方向性・効果的なプロモーションの実施

プロモーション基本方針①

観光情報発信の強化

市内外からの誘客を図るためには、適切な観光情報を発信し、本市への誘客につなげていく必要がある。

プロモーション基本方針②

ターゲット発地でのプロモーション

関西国際空港や南海電鉄難波駅などをはじめ、関係団体との連携を活かした積極的なプロモーションの必要がある。

プロモーション基本方針③

広域連携の推進

本市だけでなく近隣市町と連携を図り、エリアとしての相乗効果にて誘客を図る。

個別課題B：プロモーション基本方針における役割分担イメージ

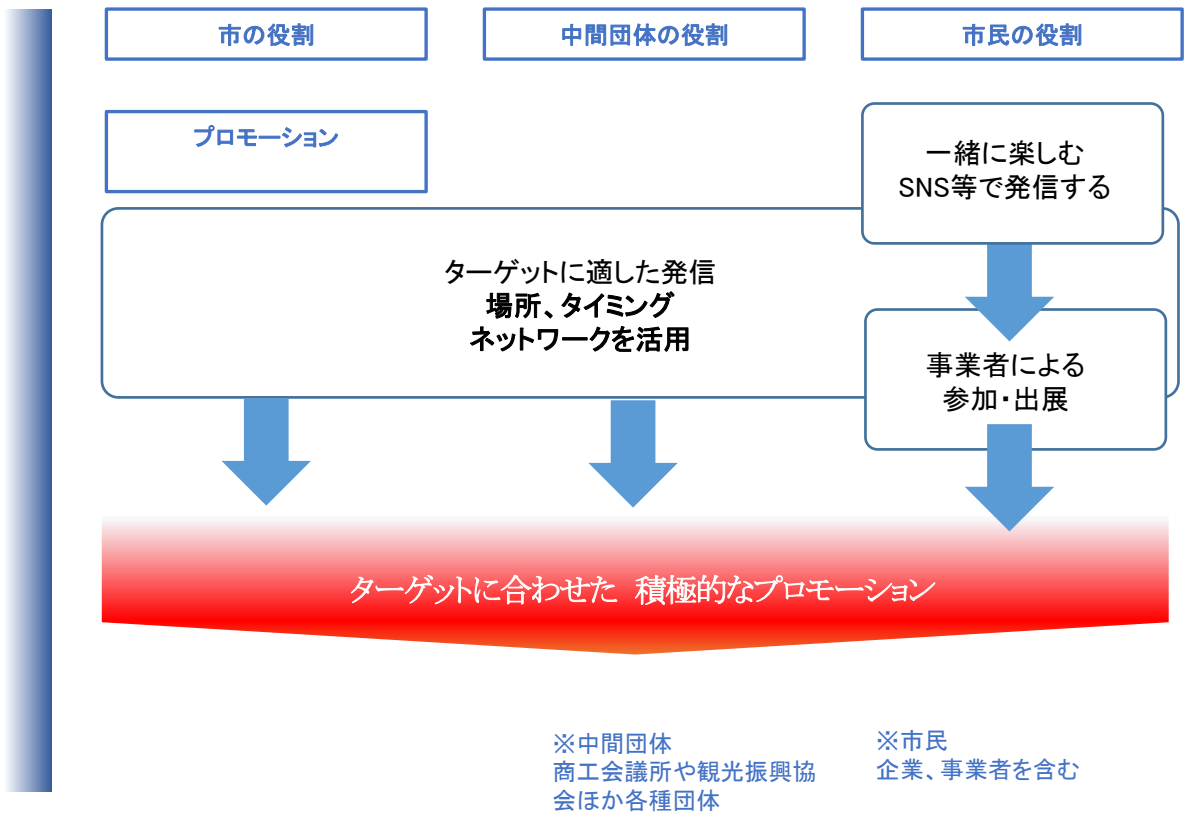


図5-2 「プロモーションの役割分担イメージ」

(4) 個別課題C「受け入れ体制が不十分」に対する方向性

岸和田市シティセールスプランにおいて「岸和田市の資源や魅力」である「温かみのある人々」が挙げられていますが、前計画及び提言書で推進した「人しるべ」事業を引き続き本計画でも推進していく必要があります。

また、土産などの開発だけでなく、売るための仕掛けが必要であり、商店街が11か所もある本市の特性も活かし、歩いて楽しめる仕組みづくりが必要です。

方向性・受け入れ体制の充実

受け入れ体制基本方針①

観光人材の育成

市、岸和田市観光振興協会、岸和田商工会議所だけではなく、産官学連携した観光人材の育成に取り組む。

個別課題C：受け入れ体制基本方針における役割分担イメージ

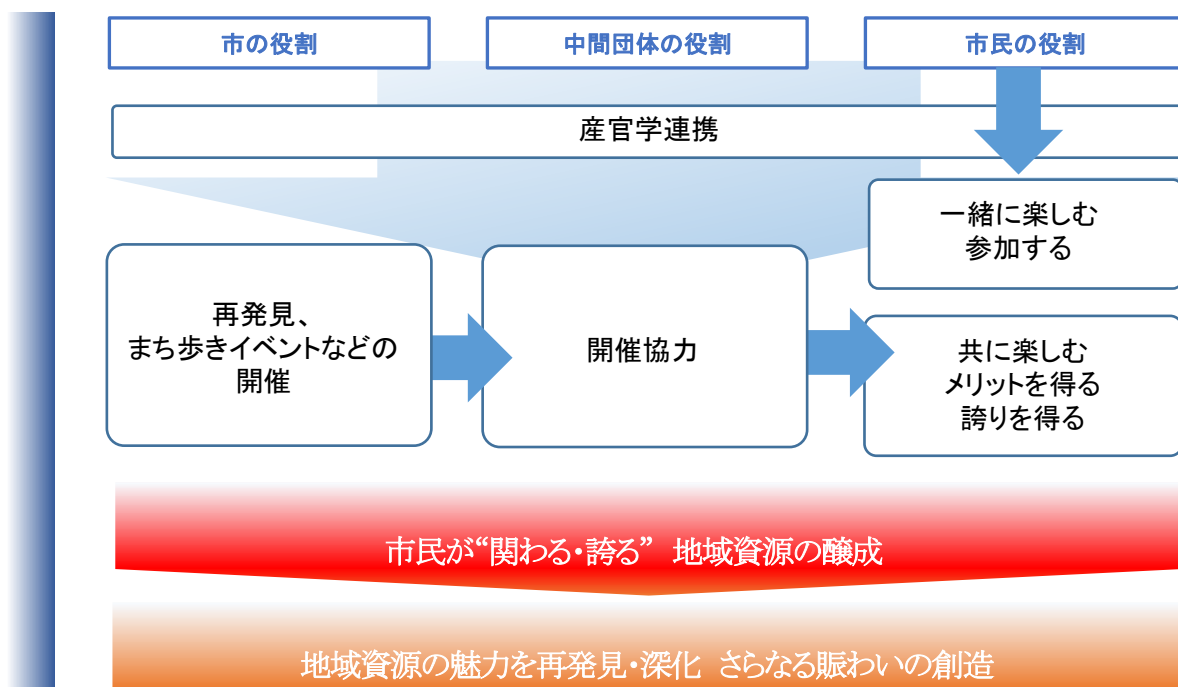


図5-3 「受け入れ体制の役割分担イメージ」

※中間団体
商工会議所や観光振興協
会ほか各種団体

※市民
企業、事業者を含む

別紙 A3原稿(よこ)
第1期行動計画①
28ページが入ります

別紙 A3原稿(よこ)
第1期行動計画②
29ページが入ります

別紙 A3原稿(よこ)
第1期行動計画③
30ページが入ります

2. 推進体制、事業評価体制

(1) 第2次岸和田市観光振興計画の検証・推進体制

計画の検証は、本計画策定の主体となる委員会で実施していきます。

計画の推進にあたっては、定期的な会議において、事業報告、進捗状況確認、提案などを繰り返し、PDCAサイクル(※)を実践していく予定です。

あとがき

地域力という言葉が使われるようになって久しくなります。地域力は、地域の自然力をはじめ、文化力、経済力、社会力、行政力などで、それらは、地域の自然環境、産業、観光施設、教育、住民組織、行政組織など、いわゆる地域資源によって支えられています。

地域の発展や活性化は、地域力を高めることによって達成できると考えられています。地域の発展をめざすには、地域資源が地域力のパワーアップに寄与する可能性を見極めながら、既に存在する地域資源を利用すること、そして新しい地域資源を開発することが常に求められます。

岸和田市は、自然資源や歴史資源、文化資源など、地域資源に恵まれた都市です。経済活動が盛んであったこともあり、経済資源にも比較的恵まれています。近隣には、関西国際空港のような新しい大規模資源も存在します。岸和田市の観光について考える場合には、存在する地域資源から観光に結びつくものを選択し、また新しい観光資源を開発しながら、それらが岸和田市の発展に寄与できるように工夫しなければなりません。

唯一の大きい観光資源といえるのはだんじり祭です。しかし、だんじりの曳行は九月祭礼、十月祭礼ともにそれぞれ二日間に限られます。また、祭礼運営は自主曳行・自主規制の理念にもとづいて行われているため、行政の関与は側面的支援に限られます。けれども、だんじり祭が歴史的に培ってきた「木の文化・音の文化・人の文化」に代表されるだんじり文化は、観光資源の一つとして、祭礼関係者の協力を得ながら、祭礼日以外にも発信することは可能です。

岸和田市は、京都やパリのような巨大観光都市ではありません。観光資源の一つ一つの規模は小さく、来訪者の急増は望めません。現代的な観光資源を新しく創造することもすぐには困難です。本観光振興計画は、岸和田市の観光を取り巻く厳しい状況の下で、岸和田市のさまざまな観光資源の利用を改善させ、それを岸和田市の発展に結びつけていくための工夫を考えています。

岸和田の優れた特徴の一つは、人々の結びつきと地元愛・郷土愛が強いことです。来訪者は少ないかもしれませんが、岸和田を愛する人々のおもてなしは来訪者の岸和田に対する心象を高めて、もう一度来てみたいと感じさせてくれるはずです。岸和田市の観光を活性化させるためには、岸和田市民はもちろん、市外の人々にも岸和田に対する理解を深めてもらう必要があるのではないのでしょうか。

岸和田市観光振興計画推進委員会
委員長

石田信博

岸和田市観光振興計画推進委員会 開催概要

開催日時		議 題
第1回	平成28年 9月29日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の現状報告について ・新計画の進め方について
第2回	平成28年 10月27日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の委員会における議事内容について ・“誰のための観光か？” ～岸和田市の観光課題について～
第3回	平成28年 12月1日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・前回までの委員会における議事内容について ・第2次岸和田市観光振興計画暫定版について
第4回	平成28年 12月26日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の委員会における議事内容について ・第2次岸和田市観光振興計画素案について
	平成29年 2月24日(金)～ 3月27日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・パブリックコメントの募集 <ul style="list-style-type: none"> ○第2次観光振興計画(素案)全体版 ○第2次観光振興計画(素案)概要版 について
第5回	平成29年 3月28日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・第2次岸和田市観光振興計画(案)について ・今後のスケジュールについて

岸和田市観光振興計画推進委員会 委員

	氏名	所属
	【学識経験者】	
委員長	石田 信博	同志社大学 商学部 教授
副委員長	百武 仁志	大阪観光大学 観光学部 専任講師
委員	小川 雅司	羽衣国際大学 現代社会学部 准教授
	【公共的団体の代表者】	
委員	土井 康司	岸和田市観光振興協会 会長
委員	中井 秀樹	岸和田商工会議所 会頭
委員	山本 義治	岸和田だんじり祭運営協議会 会長
委員	井上 實	岸和田市国際親善協会 副会長
委員	藤浪 勝三	岸和田ボランティアガイド 会長
	【関係団体の代表者】	
委員	安田 博宣	株式会社 新日本旅行 取締役
委員	中島 徹	南海電気鉄道株式会社 営業推進室 営業部長
	【市民公募】	
委員	石川 真裕美	
委員	小南 嘉則	

※順不同・敬省略

(P5)「まち・ひと・しごと創生」施策

人口急減・超高齢化という我が国が直面する大きな課題に対し政府一体となって取り組み、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生できるよう、平成26年内閣にまち・ひと・しごと創生本部が設置された。

(P6) 格安航空会社(LCC)

効率化の向上によって低い運航費用を実現し、低価格かつサービスが簡素化された航空輸送サービスを提供する航空会社である。LCCとはローコストキャリア(Low-cost Carrier)の略。

(P8) インバウンド(訪日外国人旅行者)

インバウンド(Inbound)とは、外国人が訪れてくる旅行のこと。日本へのインバウンドを訪日外国人旅行者または訪日旅行という。

(P11) RESAS

(リーサス/地域経済分析システム)

産業構造や人口動態、人の流れなどに関するデータを集約し、地図上に可視化したシステム。地方自治体がデータを活用し、地方創生のための戦略立案ができることを目的に政府により平成27年に公開された。登録を行えば、誰でも無料で利用できる。

(P12) カーネーション

平成23年度下半期に、NHK大阪放送局制作により放送された連続テレビ小説。岸和田市出身のファッションデザイナー「コシノ3姉妹」の母である小篠綾子さんをモデルとしている。優秀番組に贈られるギャラクシー賞大賞をはじめ表彰多数。また、世界合計31の国・地域での放送は連続テレビ小説としては「おしん」の73の国・地域に次ぐものである。

(P18) 着地型観光

出発地で企画され目的地へ行く「発地型観光」に対し、旅行者を受け入れる地域側が地元ならではの観光資源を元にプログラムを企画する形態のこと。

(P19) SNS

ソーシャルネットワークキングサービス(Social Networking Service)の略。インターネット上で人同士のつながりを支援することを目的としたコミュニケーションサービスのこと。

(P25) 発地

旅行者が出発する地域のこと。居住地だけでなく目的地への交通手段における代表的なターミナルなどの経由地を指すこともある。

(P28) 大阪府民泊条例

平成28年4月より施行された、大阪府国家戦略特別区域外国人滞在施設経営事業に関する条例のこと。外国人観光客が増加するなか、ホテルや旅館の不足を補うための方策として一定の要件を満たす場合の外国人滞在施設経営事業について規定した条例。

(P28) 岸和田市ホテル・旅館誘致条例

平成28年7月より施行。助成措置を講ずることにより本市へのホテル及び旅館の設置を促進するための条例。

(P28) 岸和田ブランド

「岸和田らしさ」を備え、優れた製品として一定の基準に適合するものを認定している。

(P28) 関西ワールドマスターズゲームズ2021

4年ごとに開催される原則30歳以上のスポーツ愛好者であれば誰もが参加できる生涯スポーツの国際総合競技大会。第10回記念大会は平成33年に関西で開催され、BMX競技が岸和田市で行われる。

(P28) BMX

自転車で丘陵や斜面などを走行するモトクロス競技のこと。岸和田競輪場に隣接するサイクルピア岸和田にBMXコースが設置されている。

(P28) スポーツツーリズム

交流人口の拡大や地域活性化につなげるために、スポーツの観戦や参加と観光を結び付けたもの。

(P29) DMO

(Destination Management Organization)とは、観光物件、自然、食、芸術・芸能、風習、風俗など当該地域にある観光資源に精通し、地域と協同して観光地域作りを行う法人。「日本版DMO」として、地方創生に役立つ中間団体として各地域において方向性が模索されている。

(P31)PDCAサイクル

Plan(計画)、Do(実行)、Check(評価)、Action(改善)の4つの段階を繰り返して継続的に業務を改善していくマネジメント手法のこと。

第2次岸和田市観光振興計画

平成29年3月31日

岸和田市

〒596-8510 大阪府岸和田市岸城町7番1号

電話072-423-2121(代表)

<http://www.city.kishiwada.osaka.jp/>